■ 意 見

奥野佳寿子

ＴＶニュースで淀川水系のダムを作るか国交省の役人と話し合うニュースを見ました。

大事な論点を抜かしていると思うので　下記に書いてみたいと思います。

高速道路を作るでも、長良川のダムを作るでも、いつも　「作るのだ」という結論有きで、資料が作られていると思います。
一人一人はごく普通の人なのに何故　役人の肩書きをつけるとわけの分からない人間になるかを考えてみました。

この役人達は、ダムが中止になったら　後どうなるのでしょう?
次の仕事があるのでしょうか?
もし中止になったら　無能の肩書きを貼られ、しばらくは次の仕事も無く、出世も出来ないかもしれないと心中びくびくしているのではないでしょうか?

心の中では、ダムはいらないかもしれないと思っているかもしれません。

でも、自分の給料が減るのが、　役所内での自分の評価が下がるのが恐ろしくて、「いらない」と言えないのでは?

これでは自分の仕事に誇りがもてません。
正しいことのためにしているのではなく、ただの保身のために後ろめたい仕事をしているのですから

防衛庁の守屋元事務次官にみられるように、官僚のトップはフィールドワークもろくにしない、実は現実について何も知らないし興味も無いけど自分に都合のいい机上の空論を振り回す上司が多いのだと思います。

ここに官僚残酷物語があるのでは?

次の話し合いでは、「このダムが中止になったら、あなた方の次の仕事や身分はどうなるのか？」
に重点を置いて、ダムに関してはもういらないのが前提として話を進めてはどうでしょうか？

これは、淀川のダムだけでなく、他の高速道路や橋、国交省が土木工事を無理やり進める場合、考えるべき大事な視点となると思います。
優秀で誠実な官僚が力を発揮できるシステムを考えることをダム中止の取り組みと並行してマスコミを通して国民に提示してみてはどうでしょうか？